

環境の時代の新しい幼稚園・保育所 ドイツの園庭ビオトープ視察ツアー2010

－ 実施レポート －

視察企画 (財)日本生態系協会

後 援 (社福)日本保育協会、(社)全国私立保育園連盟

協 力 (株)ジャクエツ、(株)チャイルド本社、
ひかりのくに(株)、(株)メイト

2010年8月16日～8月22日の7日間、「環境の時代の新しい幼稚園・保育所 ドイツの園庭ビオトープ視察ツアー2010」を実施しました。

ツアーには、幼稚園・保育所の設置者や保育者、研究者、学生など、全国各地から23名の方々が参加しました。

乳幼児期は、豊かな感性を育む大切な時期です。小さい頃からの自然との触れ合いが、豊かな感性や健康な体を育みます。そのため、今ドイツでは、日常的に自然と触れ合える「園庭ビオトープ」のある幼稚園・保育所に保護者の関心が集まっています。

そこで、今回のツアーでは、環境教育が積極的に進められているザクセン州を訪れ、自然いっぱいの楽しい園庭を持つ幼稚園・保育所や、州政府など7カ所を視察してきました。子どもたちや保護者の意見がふんだんに盛り込まれた園庭では、子どもたちがいきいきとした笑顔で元気いっぱいに遊んでいました。

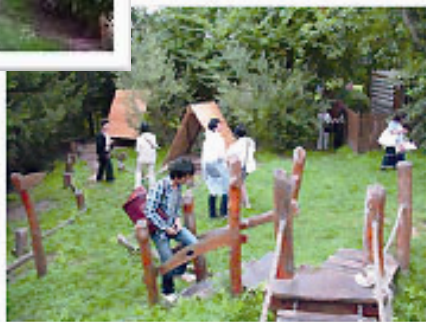
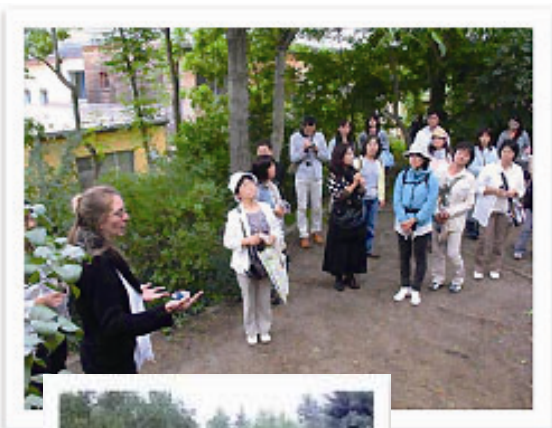




フレーベル自然幼稚園

ザクセン州主催の第1回園庭コンクールで最優秀賞を受賞しました。限られた敷地面積の中で、起伏を設けるなど環境に変化をつけ、地域の自然の草や木を用いて緑豊かな園庭をつくっていました。子どもたちが五感を使い、自発的に遊びを見つけることができるように工夫がなされていました。園内の遊具は、自然の素材である木が材料として使われ、保護者の協力によってつくられていました。





コーボルドランド幼稚園・保育所

この園では、「私たち人間も生きものであり、自然と切り離して生きていくことはできない」という理由で、子どもたちに自然とのふれあいを積極的に促しています。広い園庭に、草地や樹林地があり、子どもたちは毎日好きなところで遊ぶことができます。

園長先生は、「小学校に上がるまでに、子どもたちには、知識を詰め込むのではなく、様々な遊びの空間を提供することを通じて、社会性を身につけさせたい」と話していました。



ゲルリッツ森の幼稚園

広大な森が、子どもたちの「幼稚園」です。この森の幼稚園では、子どもたちが森の中で自由に遊ぶほかに、子どもたちの希望を聞きながら保育者がテーマを決めて、そのテーマに沿って活動を行う時間があります。訪問時のテーマは「宝探し」でした。子どもたちは、保育者から提示されたヒントをもとに、保育者と一緒に一生懸命になぞ解きをしていました。この園を卒業した子どもたちは、社会性が身についていると評判とのことでした。





ゲルリッツ・ヴァルドルフ幼稚園

自然を重んじるシュタイナー教育を取り入れた幼稚園です。四季の変化など、自然のリズムを感じることができる環境づくりを大切にしています。子どもたちの個々の特徴を引き出してあげるために、園内には、自然をベースに、子どもたちの五感を刺激する、多様な環境が設けられていました。また、子どもたちが手に触れるものは、極力自然の素材が用いられていました。



モイゼブルグ幼稚園・保育所

この園の園庭では、子どもたちの創造性や独創性を育むことがテーマになっています。広い園庭の中に、五感を刺激するゾーン、体を動かすゾーン、創作活動に励むゾーンなど、場所ごとにテーマがあり、子どもたちは自ら遊びを考えていました。また異年齢で活動することで、上の子が下の子の面倒をみる姿も見られました。視察時は時折、小雨が降っていましたが、子どもたちは、レインウェアを着て元気いっぱいに遊んでいました。



クニルブセンランド幼稚園・保育所

ザクセン州の第1回園庭コンクールで優秀賞を受賞しました。「本や映像ではなく、本当の体験を子どもたちに与えたい。体験を通じて、様々な気づきを与えたい」ということが、この園の保育のコンセプトになっていました。園庭では、平坦だった地面に起伏をつけたり、地域の自然に生えるヤナギの枝を計画的に挿し木し、トンネルや、一人で静かに遊ぶドームなどを設けたりし、多様な環境づくりを行っていました。



ザクセン州文化・スポーツ省

州の幼児教育や保育を統括する機関であるザクセン州文化・スポーツ省を訪問し、幼稚園や保育所における園庭環境のあり方を中心にお話をお聞きしました。州政府では、子どもたちの健全な心と体の発達に、日常的な自然との触れ合いが重要と考え、園庭ビオトープづくりを積極的に奨励していました。

また、州政府の意向を具体化するために、園庭コンクールを行い素晴らしい事例を紹介するザクセン州健康増進支援協会や、環境教育に関する情報提供や専門家を斡旋するザクセン州自然・環境財団などとの、充実した支援体制についてもお話を伺いました。



+++ 視察を終えて +++

7日間という短い期間でしたが、本視察ツアーでは、豊かな感性や協調性、創造性、社会性を育むために、子どもと自然との触れ合いを重要と考えて、自然豊かな園庭づくりを積極的に進める、たくさんのドイツの保育者や専門家の方々と出会うことができました。また園庭ビオトープはもちろん、園舎や遊具などを通じた子どもたちの生活環境への配慮についても学ぶことができました。

今回、視察した園、州政府では、子どもたちの心と体の健全な発育に向けて、子どもたちにどのような環境を与えるべきかを真剣に考え、自然いっぱいの園を目指すことが必須であるという結論を導き出していました。但し、多くの園は、それでも不十分と考え、週に幾度かは地域の森に出かけて、本当の自然を体験させていました。そうしたなかで、子どもたちは自らの興味関心にあわせて、様々な遊びを考え、また友達同士でルールをつくり、あるいは表現の能力を育んでいる姿がありました。

そうした中で、保護者も、そうした園の取り組みを理解し、積極的に自然いっぱいの環境づくりを計画したり、管理に参加したりするなど、協力していることが印象的でした。

さまざまな園を視察する中で、参加者からは「幼児期の自然との触れ合いの大切さを改めて感じた」「保育者自身が自然についてもっと知る必要があると感じた」「子どもたちの五感を刺激する園づくりの参考になった」などの感想が多く寄せられました。

私たちの協会では、1995年にヨーロッパ事務所、アメリカ事務所をおき、環境に関する世界各国の取り組みについて情報収集を行ってきました。これからも自然いっぱいの素晴らしい園がご紹介できるように、情報の蓄積を行っていきます。ご要望があれば、個別に視察ツアーを企画しコーディネートすることも可能です。お気軽にご相談ください。



参加者のみなさん